

進行予定:

1. 高田教授:急性胆道炎ガイドライン国際コンセンサス会議に対する共通認識  
国際シンポに向かう基本方針／開催国としての立場／
  - 1) 会議全体を通しての基本方針  
通常の学会のような演者による Lecture 方式ではなく、Discussion 方式をとる。  
演者:ガイドライン内容の説明  
司会者:1セッションあたりのポイントを3~4点に絞り、問題を提起し Answer pat を使用し、意見を集約する。
  - 2) 例:胆嚢炎診断基準  
演者:作成した診断基準、およびなぜその項目を採用したかを解説する。  
司会者:海外からのコメント集(12/25 に完成)を参考にして、まず、診断基準内容が適切かどうかの意見を集める  
→ 会場からの想定される意見、質問と答え(落とし所)を考えておき、意見を集約する。(司会者からも積極的に質問を出す:この場合に他の治療法はないか? 搬送せず手術という方法は考えられないか? 等)  
→ 答えを反映した案作成し Answer pat 形式で決を採り、採択する。  
この結論が、Tokyo Guidelines として出版される。
2. 診療ガイドラインとは何か?(復習)
  - ・吉田:診療ガイドラインの考え方  
日本および高田班のガイドライン作成の歴史/Evidence Level/推奨度
  - ・関本先生:急性胆道炎診療 Guideline の必要性と役割
  - 1) 欧米の諸先生からのコメント  
ガイドライン作成方法等全体の方針に関する意見
    - ・Strasberg:Standard と Guideline の違いを明確にすべき
    - ・川原田教授:Guideline と Standard の考え方について:前回の議事録参照
  - 2) ガイドライン全体の考え方
    - ① わが国と海外の医療ならびに胆道炎についての考え方や  
臨み方の違いをどのようにしてうめるか?  
胆管炎の搬送に際し、ドレナージできない施設で手術を行う国は、考えられないか?
    - ② この Tokyo consensus meeting は Gold standard を作るためか?  
それとも単なる英文化した Guideline か?  
→ あくまで、日本発、世界の standard 作成を目指す。そのためには、  
日本の考え方のみにとらわれず、世界の医療にも精通することが理想である  
→ 対策として、欧米の教科書や指導書を熟読する。  
専門家のご意見を良く聞く。各担当者が代表としての自覚を持つ

3. 国際会議準備委員会、本会議さらにガイドライン出版までの流れ
  - 2005年9月:日本語版急性胆管炎、胆嚢炎診療ガイドライン出版
    - 日本語版と平行して英語版ガイドライン作成作業継続
  - 2005年12月20日:海外からの意見評価の集約整理(作業委員会)
  - 2005年12月25日:第一回国際会議準備委員会(準備委員全員)
    - 基本的方針の確認と海外からの評価内容の把握、内容の統一性確認
    - 英文訂正、さらに追加して改訂する
  - 2006年1月29日:第二回国際会議準備委員会(準備委員、演者、司会者全員)
    - 八重洲ホール901会議室
    - 海外からの評価内容の把握を踏まえた講演内容プレゼンテーション戦略案公表
    - 各演者がそれぞれの領域のポイントを検討し、シンポでのkey pointを提案
    - Key pointを中心に置いた質問形式(Answer pat)を検討
  - 2006年2月26日:第三回国際会議準備委員会(準備委員、演者、司会者全員)
    - 八重洲ホール901会議室
    - 予演会(シュミレーション)第一回
  - 2006年3月12日:第四回国際会議準備委員会(準備委員、演者、司会者全員)
    - 予演会(シュミレーション)第二回
  - 2006年4月1日-2日、本会議:国際コンセンサス会議
  - 2006年4月~8月 英文論文作成作業
    - 欧米の先生方とのメールによる意見交換
  - 2006年9月 英文論文投稿
  - 2007年1月 雑誌掲載
4. 各 Session の基本的な方針と会議形式、Key points の提示
  - 各セッション:アンサーパッド形式
  - この症例をどうするか?:パネル形式:平成の会
  - モーニング、ランチョンセミナー:基本的には通常のセミナー形式
5. Session 内容の検討:提示案と問題点
  - 1) 診断基準/重症度判定/搬送基準
    - 胆嚢炎、胆管炎
  - 2) この症例をどうするか?:パネル形式:平成の会
  - 3) 胆管炎:ドレナージ:榎野、露口
  - 4) 胆嚢炎:手術:山下
  - 5) 抗菌薬治療

平成18年3月12日

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業

急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班(主任研究者 高田忠敬)

急性胆道炎ガイドラインコンセンサス会議 第4回準備委員会 議事録

日時:平成18年3月12日(日)11:00-18:00

会場:東京八重洲ホール 301 会議室 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-13

出席者

厚生労働科学研究班 主任研究者、国際会議会長:高田忠敬

準備委員:川原田嘉文、二村雄次、平田公一、山下裕一、安田秀喜、榑野正人、廣田昌彦、

関本美穂、田中 篤、真弓俊彦、三浦文彦、露口利夫、木村康利、吉田雅博

司会、コメンテーター、演者

小俣政男(代 多田稔)、近藤哲(代 平野聡)、平澤博之、藤田直孝、五味晴美、

真口宏介、瀧沼朗生、良沢昭銘、伊佐山浩通、糸井隆夫、伊藤彰浩、豊田真之

事務局:上大谷美穂子

欠席者 跡見裕、和田慶太

(以上、敬称略)

議題:

1. 高田会長挨拶:急性胆道炎ガイドライン国際コンセンサスに対する共通認識確認

2. Session 内容の検討

Session 2.胆嚢炎:診断基準、重症度判定基準(廣田先生)

Session 3.胆嚢炎:IVR (露口先生)

Session 4.胆嚢炎:手術 (山下先生)

Session 8.フローチャート(三浦先生)

前回提示検討された session の復習および改訂案公表

Session 1. 急性胆管炎胆嚢炎診療 Guidelines の必要性と役割(関本先生)

Session 5. 胆管炎:診断基準、重症度判定基準(和田先生)

Session 6. 胆管炎:IVR (露口先生)

Session 8. 胆管炎・胆嚢炎:抗菌薬診療(田中先生)

Seminar. Special case discussion の中の2例(平成の会)

資料:

1. 国際コンセンサス会議関係資料

I. Guideline と Standard、 II. 国際コンセンサス会議開催目的、 III. 基本方針

IV. 国際コンセンサス会議スケジュール:別紙参照(参加者計312名) V. Chairman 依頼

2. 事前打ち合わせ(3月31日)案

3. 参考論文:Guidelines 2000 for Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency cardiovascular care

International consensus on science

委員会名簿

4. 講演、Analyzer system 用資料(川原田教授作成、和田先生、廣田先生、山下先生)

# International Consensus Meeting for the management of Acute Cholecystitis, Cholangitis

**Convenor: Tadahiro Takada, M.D., F.A.C.S.**

Chief of the Clinical Research Group to create and promote clinical practice guidelines for management of acute cholangitis and cholecystitis granted by the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

**Date: January 7, 8, 2006**

**Venue: Main Hall, Teikyo University Hospital, Tokyo, Japan**

**Purpose and Discussion Contents:**

Creation a Consensus Definition regarding mainly Acute Cholecystitis and Cholangitis of

- (1) Diagnostic Criteria,
- (2) Determination of Degree of Severity,
- (3) Criterion of Transportation to High-Volume Hospital,
- (4) Choice Criterion of Medical Treatment,
- (5) Choice of antibiotics
- (6) Timing of Drainage, Surgical Intervention, Others,
- (7) Others

We will exchange views and comments on the planned guideline (in both Japanese version and English version) via the Internet in advance. And then, having a discussion at the meeting in person and also statistically clarify the all views and comments using answer pats.

Professor emeritus at Mie University will act as the Chairman at the meeting, that means we will be able to have an impartial decision. After finished the meeting, the completed guideline English version will be published. Although the meeting will be conducted without such long break for these 2 days, I hope there will be full participation of as many doctors as possible in this meeting and wise views and comments from them from around the world.

**Co-Sponsors: Japanese Society for Abdominal Emergency Medicine**

Japan Biliary Association

Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery

Secretary: Mihoko Ueotani ( [mihou@med.teikyo-u.ac.jp](mailto:mihou@med.teikyo-u.ac.jp) )  
Department of surgery, Teikyo University School of Medicine  
2-11-1 Kaga Itabashi-Ku Tokyo, Japan 〒173-8605  
Tel 81-3-3964-1211 (ext 1424), Fax 81-3-3961-6944

厚生労働科学研究研究費補助金  
医療技術評価総合研究事業

急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究  
平成 17 年度 総括・分担研究報告書

平成 18 年 3 月 31 日 印刷発行

発行者 厚生労働科学研究 医療技術評価総合研究事業  
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班  
主任研究者 高田忠敬  
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1  
帝京大学医学部外科  
TEL:(03) 3964-1228 FAX:(03) 3962-2128

印刷所 (有) 下田タイプ印刷  
東京都豊島区東池袋 1-44-8  
TEL:(03) 3982 - 1708